

平成30年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(非連結)

平成30年2月9日

上場会社名 株式会社 アイフリーク モバイル
 コード番号 3845 URL <http://www.i-freek.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 上原 彩美
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役兼管理部長 (氏名) 紀伊 克彦

TEL 092-471-5211

四半期報告書提出予定日 平成30年2月9日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	585	18.4	63		64		64	
29年3月期第3四半期	494		3		10		13	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	4.64	
29年3月期第3四半期	1.09	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年3月期第3四半期	613	374	60.7	25.95
29年3月期	722	329	45.2	24.04

(参考)自己資本 30年3月期第3四半期 372百万円 29年3月期 326百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		0.00		0.00	0.00
30年3月期		0.00			
30年3月期(予想)				0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年 3月期の業績予想(平成29年 4月 1日～平成30年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	941	33.0	27	125.0	25	525.0	19	1,800.0	1.40

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年3月期3Q	14,344,300 株	29年3月期	13,594,300 株
----------	--------------	--------	--------------

期末自己株式数

30年3月期3Q	300 株	29年3月期	300 株
----------	-------	--------	-------

期中平均株式数(四半期累計)

30年3月期3Q	13,907,636 株	29年3月期3Q	12,146,932 株
----------	--------------	----------	--------------

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる過程及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6
3. その他	7
継続企業の前提に関する重要事象等	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、欧米の政策方針や東アジアの政情不安定により、景気動向は依然として先行き不透明な状況であるものの、国内では企業収益や雇用環境の改善が進み、緩やかな回復基調で推移しました。

このような状況のもと、当社の業績拡大及び企業価値の増大を目指すにあたり、当社役員に対して有償ストックオプションの発行をいたしました。また、コンテンツへの投資及び運用を事業目的とした100%子会社の合同会社アイフリーク サンタ ファンドを新たに設立いたしました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における業績は、売上高585,666千円(前年同期比18.4%増)、営業損失63,877千円(前年同期は3,320千円の営業損失)、経常損失64,065千円(前年同期は10,987千円の経常損失)、四半期純損失64,506千円(前年同期は13,299千円の四半期純損失)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① モバイルコンテンツ事業

モバイルコンテンツ事業の『デココレ』『photodeco+』では、年末年始の需要期に合わせ、プレゼントキャンペーンや有名キャラクターとのコラボレーションを行い、新規ユーザーの獲得と利用促進施策を実施いたしました。『Stapa!』では、新規ユーザーの獲得を狙いYouTuberとのタイアップを行いました。『森のえほん館』(電子絵本)では、iOSアプリの大幅なリニューアルを行い、幅広い利用シーンで安心してご利用いただける環境を整備いたしました。また、絵本のライセンス提供を行い、LINEのスマートスピーカーに搭載されているAIアシスタント「Clova」やANA国際線全線への機内モニターで絵本が配信されました。

これらの結果、当第3四半期累計期間におけるモバイルコンテンツ事業の売上高は286,571千円(前年同期比22.2%減)、セグメント利益は43,317千円(前年同期比47.0%減)となりました。

② コンテンツクリエイターサービス(CCS)事業

CCS事業はクリエイタースタッフの技術向上・育成に注力し、教育体制の強化を図ってまいりました。具体的には顧客の満足度向上に繋げるため、クリエイタースタッフが自社コンテンツ運営に携わり、実践を通して経験を積むことにより、スピーディーに技術の習得が行える施策を行いました。一方、事業基盤確立と今後ますます深刻化していくとされているIT人材不足への対応として、クリエイタースタッフの雇用を先行して進めているため、引き続き費用が嵩みました。

これらの結果、当第3四半期累計期間におけるCCS事業の売上高は299,095千円(前年同期比136.7%増)、セグメント利益は20,403千円(前年同期比32.2%減)となりました。

(注) 製品名及びサービス名は商標又は登録商標です。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産の状況

流動資産は、前事業年度末に比べ100,690千円(15.5%)減少し、547,323千円となりました。これは主として、売掛金が5,626千円、仕掛品が14,565千円、前払費用が3,217千円増加したものの、社債の償還等に伴い現金及び預金が125,265千円減少したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べて8,472千円(11.4%)減少し、66,038千円となりました。これは主として、有形固定資産が3,264千円、無形固定資産が5,804千円減少したことによるものであります。

以上の結果、総資産は、前事業年度末に比べて109,163千円(15.1%)減少し、613,362千円となりました。

② 負債の状況

流動負債は、前事業年度末に比べて154,336千円(39.9%)減少し、232,722千円となりました。これは主として、未払金が8,830千円、未払費用が26,604千円増加したものの、1年内償還予定の社債の償還により200,000千円減少したことによるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べて59千円(0.9%)減少し、6,192千円となりました。

以上の結果、負債合計は、前事業年度末に比べて154,395千円(39.3%)減少し、238,914千円となりました。

③ 純資産の状況

純資産は、前事業年度末に比べて45,231千円(13.7%)増加し、374,447千円となりました。これは主として、第三者割当増資による株式発行により資本金及び資本剰余金がそれぞれ54,521千円増加したものの、四半期純損失を64,506千円計上したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年3月期の業績予想につきましては、平成29年5月15日に公表いたしました業績予想数値から変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	488,572	363,306
売掛金	149,651	155,277
仕掛品	945	15,511
前払費用	8,306	11,524
その他	960	2,032
貸倒引当金	△421	△328
流動資産合計	648,014	547,323
固定資産		
有形固定資産	18,694	15,430
無形固定資産	17,938	12,134
投資その他の資産	37,877	38,473
固定資産合計	74,510	66,038
資産合計	722,525	613,362
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,926	6,833
短期借入金	100,000	100,000
1年内償還予定の社債	200,000	—
未払金	20,844	29,675
未払費用	25,591	52,196
未払法人税等	9,035	3,172
未払消費税等	16,358	9,469
その他	10,302	31,375
流動負債合計	387,058	232,722
固定負債		
繰延税金負債	955	859
資産除去債務	5,296	5,332
固定負債合計	6,251	6,192
負債合計	393,309	238,914
純資産の部		
株主資本		
資本金	780,319	834,840
資本剰余金	780,324	834,846
利益剰余金	△1,229,955	△1,294,462
自己株式	△34	△34
株主資本合計	330,654	375,190
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△3,832	△2,941
評価・換算差額等合計	△3,832	△2,941
新株予約権	2,393	2,198
純資産合計	329,215	374,447
負債純資産合計	722,525	613,362

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	494,845	585,666
売上原価	261,443	366,820
売上総利益	233,402	218,846
販売費及び一般管理費	236,722	282,723
営業損失(△)	△3,320	△63,877
営業外収益		
受取利息	3	1
受取配当金	—	281
貸倒引当金戻入額	2,173	—
業務受託料	—	230
補助金収入	—	517
その他	231	174
営業外収益合計	2,408	1,206
営業外費用		
支払利息	1,671	769
社債発行費償却	1,457	—
株式交付費	3,189	—
新株予約権発行費	3,602	573
その他	153	51
営業外費用合計	10,075	1,394
経常損失(△)	△10,987	△64,065
特別利益		
新株予約権戻入益	327	969
特別利益合計	327	969
税引前四半期純損失(△)	△10,659	△63,096
法人税、住民税及び事業税	2,749	1,506
法人税等調整額	△110	△95
法人税等合計	2,639	1,410
四半期純損失(△)	△13,299	△64,506

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成29年9月11日付けで、新株予約権の権利行使による払込みを受けました。この結果、当第3四半期累計期間において資本金及び資本剰余金がそれぞれ54,521千円増加し、当第3四半期会計期間末において資本金が834,840千円、資本剰余金が834,846千円となっております。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期損益 計算書計上額 (注)2
	モバイルコンテンツ 事業	コンテンツクリエイター サービス事業			
売上高					
外部顧客への売上高	368,488	126,357	494,845	—	494,845
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	368,488	126,357	494,845	—	494,845
セグメント利益又は 損失(△)	81,682	30,088	111,771	△115,091	△3,320

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注)1	四半期損益 計算書計上額 (注)2
	モバイルコンテンツ 事業	コンテンツクリエイタ ーサービス事業			
売上高					
外部顧客への売上高	286,571	299,095	585,666	—	585,666
セグメント間の内部売 上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	286,571	299,095	585,666	—	585,666
セグメント利益又は 損失(△)	43,317	20,403	63,720	△127,598	△63,877

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前事業年度におきまして、営業利益と当期純利益の計上に至りました。しかし、安定した収益力の確保と継続的な営業利益の確保についての判断は時期尚早であることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在していると判断しております。

当該状況を解消するための改善策といたしまして、引き続きモバイルコンテンツ事業の更なる成長とCCS事業の強化による継続的な収益向上を進めるとともに、全社的な業務効率化による一層の経費削減を進め、利益の確保及び経営基盤の強化を推進しております。

資金面につきましても、取引金融機関と良好な関係にあり、また、当第3四半期会計期間末における「現金及び預金」の残高は363,306千円であることから、当面の事業資金の確保はなされております。

以上のことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断し、「継続企業の前提に関する注記」の記載には至りませんでした。